

Risk Flash No.226 (Vol.6 No.24)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- データサイエンスの魅力 第3回:商品販売戦略にビッグデータの利用は今や常識! :川井明••Page 1
- 著書紹介:ケインズ対フランク・ナイトー経済学の巨人は「不確実性の時代」をどう捉えたのか••••Page 2-3
- リスク研究センター通信•••••Page 3

データサイエンスの魅力 第3回

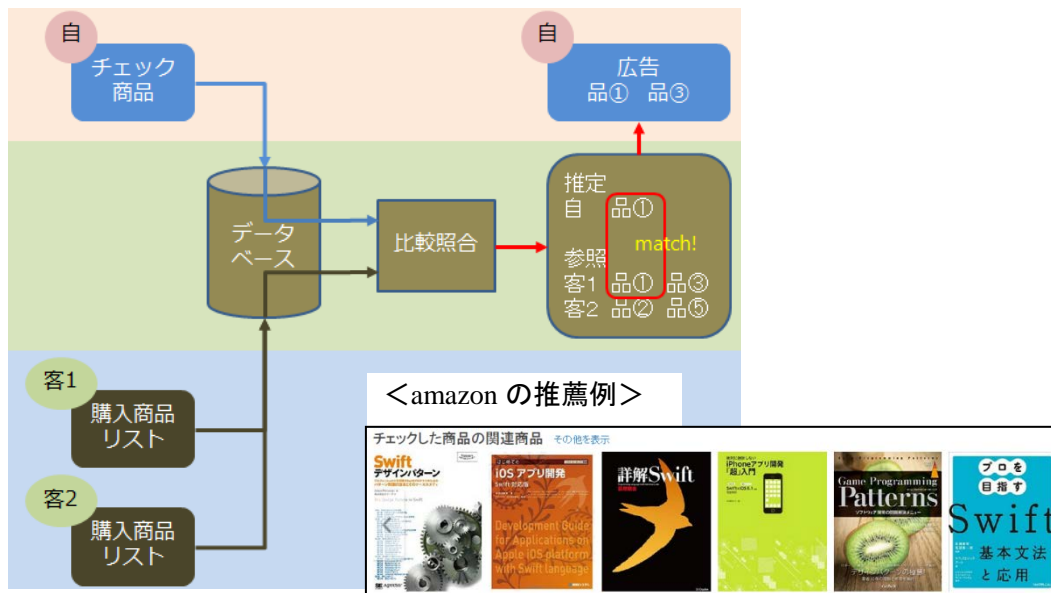
商品販売戦略にビッグデータの利用は今や常識!

かわいあきら

情報管理学科准教授 川井明

アマゾン、ヤフーなどの通販サイトを開くと、気になっている商品の広告がときどきトップページに表示されていることに気づいていませんか? どうして自分の欲しい商品がわかるのでしょう。

実は、無数の顧客の購買データは商社のデータセンターに集約されています。ある顧客(下図では自と表示)がサイトで商品をチェックすると、コンピュータの中で、同じ商品を購入した他の顧客(客1、客2)情報が引き出され、比較照合が行われます。相似度の高い顧客がほかに購入した商品は、当該顧客にとっても魅力的かもしれないと判断されると、広告が配信されます。その結果、本来考えていなかったのに、関心が引き起こされ、高い確率でその商品を購入したり、深く調べたりするようになります。



蓄積されたビッグデータは加工・整理され、解析されてデータに含まれるヒント・知見が「見える化」されます。この結果が経済や社会の課題についての1つの解答を導きます。世界をリードする大企業の多くは、これらのデータ分析を通して、顧客心理、購買欲求、市場趨勢を推測し、商品販売機会の拡大と新商品の研究開発をすでに長く行ってきています。

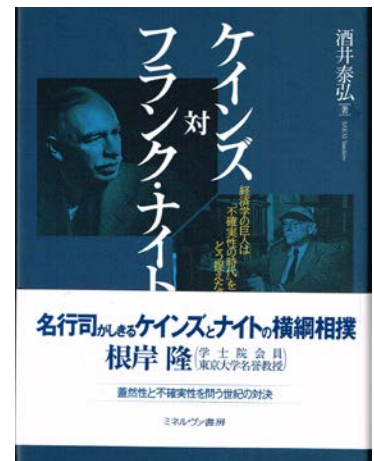
データサイエンスは世界的にも新しい分野であり、とりわけ欧米ではその教育に力を入れていています。我が国でも、データ分析のスキルを有する人材が極めて少ないという危機的状况にあり、研究や教育の拠点形成が急務だと言われています。本学は新しい学部を新設し、その旗振り役として産業官からも期待されています。

著書紹介

ケインズ対フランク・ナイト
——経済学の巨人は「不確実性の時代」をどう捉えたのか

著者： 酒井泰弘 滋賀大学名誉教授
(リスク研究センター客員研究員)

収録： 上述の書物(単著) ミネルヴァ書房
総ページ数 322 ページ、2015年10月15日発行



概要： 現代の世界経済は先の見えない混迷の時代を迎えている。今こそ蓋然性論や不確実性論に先駆的な業績をあげた二人の巨人——ケインズ (J.M. Keynes) とフランク・ナイト (Frank Knight) を再検討する必要がある。ケインズの思想と対比することによって、難解で知られるナイトの思想への理解が一層深められよう。本書の目的は、二つの世界大戦をしたたかに生きた二人の思想・理論を比較することから、この21世紀になお生きる考え方を読み取り、さらには「新しい経済学」の樹立への道筋を探ることである。

ケインズとナイトの関係は、離反、接近、再離反、そして再接近の歴史である。二人はもともと「銀の匙」と「木の匙」、生まれも育ちも全く異なるが、1910年代から1920年代、ともに蓋然性や不確実性の研究をすることを通じて学問的に急接近した。1930年代から1950年代、ケインズ流のマクロ経済学が学界を席卷するにつれて、ナイトは大きく反発した。やがて70年代から80年代にかけて、マネタリズムなど反ケインズの嵐が吹き荒れると、ケインズもナイトも学界の主流から離れる存在となった。ところが、2000年代に大不況や大災害が連発する事態になり、二人の業績が再び脚光を浴びてきている。

本書の内容を列記すれば、次のようになる。(1)「想定外」を想定する——ケインズ対ナイト、(2)蓋然性論と不確実性論——奇跡の1921年、(3)ナイトのトリアーデ——リスク・不確実性・利潤、(4)時代の子ケインズと新しいヴィジョン——ナイトへの接近と離反、(5)ケインズの新理論——『一般理論』の衝撃、(6)市場均衡の美学とナイトの異論——競争の論理と倫理、(7)ベルヌーイからケインズ=ナイトまで——原発のリスク経済分析、(8)同時代人たちを超えて——不確実性の時代を生きる。

冒頭の「序」において、「いま何故ケインズとナイトなのか」という設問に答える形で、本書の執筆動機が述べられている。また、拙書末尾に、「ケインズ・ナイト関連年表」を挿入している。なるほど、自然の「テンサイ(天災)」は忘れた頃に来るかもしれない。だが、人間の「テンサイ(天才)」のほうは忘れられない前に必ずやって来るのである。

著者のつぶやき

雑学60年、経済学教育50年、リスク学研究40年——これが私の研究者人生である。人生の原点はやはり、1945年3月の大阪大空襲である。危うく難を逃れたものの、「神国日本」から「占領日本」への大転換は、人々に「もののあわれ」を痛切に感じさせた。爾来、時の流れと人の営みとは不確実なものであり、全く当てにならないことの連続であった。

私とケインズとの最初の出会いは非常に古く、1950年代の後半である。そのころの日本の学界では「マル経」のほうが遥かに優勢であり、「近経」は「俗流経済学」だと揶揄されることもあった。アメリカでは、便利だが浅薄な「IS-LM分析」が話題になるだけで、ケインズの原点にまで遡って「蓋然性・不確実性」の奥義を究めるといった空気がまるでなかった。これに対して、私とナイトとの接触は遥かに遅れた。留学先の大学では、シカゴ出身の教師がナイトの名前に言及したものの、その講義内容はナイトの奥深い思想から程遠く、皮相的で「倫理抜き市場原理主義」に近いものだった。

1970年代から80年代にかけて、私は鉄人・モルゲンシュテルン先生の御助言を契機に、自分の専門分野を「リスクと不確実性の経済学」と定めた。今回の新著出版に際しては、私自身はわが研究の「原点回帰」の気持ちで一杯である。「ようやく異才ケインズへの復帰を果たし、巨星ナイトの警鐘に耳を傾けることが出来るのだ！」と嬉しく思っている。

21世紀は「不確実性と混迷の時代」である。思うに、「新世紀に相応しい新経済学」の構築がどうしても必要であろう。まだまだ前途遼遠の感があり、これから歩むべき道は長く厳しいかもしれない。本書がそのための「ささやかな一歩」として役立つならば、それこそ望外の幸せである。

さかいやすひろ
(滋賀大学名誉教授 (リスク研究センター客員研究員) 酒井泰弘)

リスク研究センター通信

第49回滋大祭「JUMP!」のご案内

詳しくは、<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=topics:1748&r=0> をご覧ください。

日 時:平成27年11月7日(土)・8日(日)

開催時間:10時00分～

場 所:滋賀大学 経済学部キャンパス

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代**

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 10:00-17:00）

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>